

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501657
法人名	有限会社 ふるかね屋
事業所名	グループホーム おたっしや長屋
所在地 (電話番号)	津市野田165番地 (電話) 059-239-1977
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 7 月 17 日(火)

【情報提供票より】 (H19年7月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	0~6,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 60,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2		1 名	
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	1 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 85.6 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村クリニック 岸畑歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地にありながらも 少し離れると田んぼが多くある環境に建っている。運営者が建築関係の専門家であり建物の造りにも工夫が見られる。(全居室に日のあたる計算、中庭を囲むように造られている明るい室内や居室など。)隣近所との馴染みの関係ができており 草むしりの手伝いや収穫物のお裾分けなど人の行き来する場面が頻繁にある。ホーム内には猫の「そらまめ」が一緒に生活しており暖かさを感じられる雰囲気がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価を元にこの一年で新たに取り組みを始めたもの(定期的な職員会議・避難訓練)もあり活用している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者だけでなく一部の職員にも自己評価をしてもらっている。昨年の外部評価の結果もすぐに確認できるように事務所入り口に設置している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催するような働きかけをしている最中であるが、実際にはまだ開催されておらず、メンバーの調整等、開催に向けて検討中である。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に健康状態等変化があった事は報告している。金銭管理も個々に帳面を設け報告している。職員の異動に関しても尋ねられれば隠す事も無く伝えるが事前に報告する事で家人に気を遣わす事にもなる等の配慮のもと個々に対し報告している。家人からも率直な意見が直接管理者へ述べられる。可能な部分での対応は速やかに行なっている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の行事にも参加している。利用者の参加は時間の関係等から実現していない面もある。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『たった9人のニーズ 全てに応えられなくて 何がグループホームか！』『お世話してあげているのではない お世話させていただく仕事なのだ！』を理念に職員が一丸となって取り組んでいる。詰所内にも大きく書かれた理念が貼ってある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開所当時は芯から理念を理解できない職員も居たが現在は全員がしっかりと理念を理解し、態度でも取り組みが行なえる職員体制となり、日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入、町内行事への参加等は管理者が時間外に参加している。散歩時には気軽に挨拶が交わされている。近所の住民から収穫物の差し入れや等交流もある。事業所前にある近隣住人の畑をホーム利用者が草取りをさせていただくなど交流を深めている。	○	町内会のゴミ掃除等への参加は管理者が時間外で行なっている。利用者・職員が盆踊り・運動会等への参加が行なえるよう職員も考案中であることより更なる交流を進められる事を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価を元にこの一年で新たに取り組みを始めたもの(定期的な職員会議・避難訓練)もあり活用している。詰所の入り口に昨年の評価表が掛けられいつでも自由に閲覧できる。新しい職員は存在を知らない職員もいる。	○	今後も評価を活用して、更に改善に向け取り組んでいただく事を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催を目指し日程調整をするも、行政・包括が市の合併に伴い上手く動いておらず開催困難な現状がある。	○	行政も、開催の意義を理解し協力いただけるよう、ホームからの取り組みを今後も続けて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	来年度新規事業を行なう件も含め、行政との関わりは密に取り組んでいる。不明な点があれば出向き確認を取るようし情報交換している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態等変化があった事は報告している。金銭管理も個々に帳面を設け報告している。職員の異動に関しても尋ねられれば隠す事も無く伝えるが事前に報告する事で家人に気を遣わす事にもなる等の配慮のもと個々に対し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム・利用者家族との馴染みの関係ができており 家人からも率直な意見が直接管理者へ述べられる。可能な部分での対応は速やかに行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の出入りもなく落ち着いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等へも積極的に希望者の参加を応援している。職員は訪問介護員2級以上の有資格者である。職員間で不明な点は聴きあっている。	○	新人・経験者と知識の違いもある為外部研修のみでなく定期的な内部研修も取り入れ質の向上を更に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会有志・運営者仲間が福祉分野の向上へと相互ホーム間の行き来や意見交換、情報交換を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、3日間体験入居してから利用者本人の諸状態や性格、他の利用者等との関係をふまえ家人・職員が相談を行う流れができています。その人に馴染む環境が『どこなのか?』を考え、交流のある他のホームへの紹介も行うなどサービス利用にあたり十分相談してから決めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴の情報だけを基に介護するのではなく、今の利用者本人の状態を確認し、馴染みの関係からの情報を大切にし日常を支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の利用者が心に持っている想いを大切に考えそれぞれの希望に応じるよう日々取り組み、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々利用者へ接している職員からの活発な意見を基に、個々を大切にしたい計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目安にはしているが、変化が感じられた時には随時変更している。面会時などに家族からも希望を聞きだしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	投票所、定期的な受診へ付き添いの支援をしている。来春開所予定で通所介護の認可を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医が主治医の方も居るし、ホームの協力医が定期的な往診をしている。近所に各科の専門開業医がいくつかあり必要時には受診している。その際看護師が付き添えない場合、看護職員から医師への状態説明などの専門的なメモを持参している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の案内に看取りまでのサービス体系を説明している。常勤看護師職員があり介護職員に相談しやすく家人も安心できる環境であり、必要時には職員間で話し合いの場もたれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の情報にあたる記録物は事務所内にて管理している。コンサートなどの見学で、新聞・テレビ等に報道されるような場合は家人の承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入浴時間、昼間の過ごし方、個々の自由を優先して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立により個人的に好まない献立は即席に変更し対応している。好き嫌いのある方は少なく限られている。能力に応じ準備、片付けを促し参加できるような支援、配慮をしている。季節・行事・献立内容に応じた会話を取り入れ雰囲気作りにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の生活スタイルに合わせ(テレビの時間等)希望に応じ時間・回数を支援している。朝夕希望する方も居れば一日おきの方も居る。その都度可能な限り湯の入れ替えも行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	納品期限のない内職の仕事をもらい利用者が楽しみ事として取り組んでいる。草むしりや楽器演奏等それぞれの特技を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ散歩へも出かけている。病院受診時の途中では買い物に寄るなど希望にこたえている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを当然のこととし、日中はもとより、管理者の泊まりの折は玄関も施錠しないこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	先日、消防署の協力のもとホーム関係者での避難訓練を実施した。定期的に年2回の訓練を予定している。	○	最近では地震も多くいろいろな災害を想定し ホーム・近隣住民等地域との連携の訓練も行なうよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量を業務日誌に記入する。栄養士がメニューから摂取カロリーを計算し目安にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂・各居室に明かりが入り易いように中庭がありテラスが設けられ個々に名前が書かれた植木鉢の設定等、季節を感じる配慮もされている。居間や食堂からは中庭・花壇・木々が見え季節感を感じることもできる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ個々の馴染みの環境で居室が構成されている。		